



menu

JICA STAFF @ YOKOHAMA

カンボジアで見つけた
自分の支援のカタチ

「地域と世界をつなぐ 懸け橋になりたい」

JICA横浜職員

島野 敏行 さん

Shimano Toshiyuki

横浜赤レンガ倉庫に程近く、市民の国際交流の場として親しまれているJICA横浜。そこに勤務する若手職員・島野敏行さんは、国際都市の使命を担い、市民の心に根付く国際協力に意欲を燃やす。



大学時代、国連開発計画（UNDP）出身の指導教授の影響を受け、国際協力に対する関心が高まったという島野敏行さん。総合政策学を専攻する傍ら、国連主催の模擬国連1に参加するなど国際協力分野のイベントにも積極的に関わってきた。卒業後は開発コミュニケーションを学ぶため大学院に進学、学業と併行してNGO

地域発信型の国際協力

のボランティア活動を続け、その縁からカンボジアの現地NGOで1年間インターンとして働く機会を得た。
「現場に行ってみて、日本の支援がとても感謝されていることを実感しました」と言うが、同時に目にしたのは、自国のために懸命に働く人々の姿。「言葉などでハンデを負っている自分ができることは何かと考えたときに、現場の活動をサポートする後方支援の仕事ではないかと。そこからJICAの仕事に興味を持つようになりまし

JICA入構後は、半年間の本部勤務を経て、在外OJT制度²でラオス事務所¹に赴任。農業分野担当の先輩職員のもとで実務を学んだ。現地の援助機関やNGOの関係者とかかわる機会も多かったが、院生時代のカンボジアでのインターンの経験が、ラオスで援助関係者と信頼関係を築いていく上で役立つという。
8カ月間のOJTを終えて2007年4月にJICA横浜に配属

広報、草の根技術協力事業、NGO連携を中心に、幅広い業務に携わっている。
第4回アフリカ開発会議（TICAD）の開催地が横浜に決定してからは、市民のアフリカ理解促進のため、写真展や映画祭などさまざまなイベントを企画。「地域のNGOや国際機関の関係者、写真家など、いろんな分野の方々と仕事ができ、とても刺激になります」と言う島野さんは、外部の機関や企業に積極的に足を運び、多数の連携事業を実現させている。
また、横浜市の小学校がアフリカについて学ぶ「一校一国」運動の一環として、本牧小学校の5年生とガーナの子どもたちが2月にJICA横浜のテレビ会議システムを使って交流。メディアも取材に訪れるなど、内外から多大な反響を得た。機材や技術者の手配、ガーナ事務所との連絡など一連の準備に携わった島野さんは、「これだけ大きな仕事ができるのも、チームメイ



ラオス事務所¹で島野さんは、現地で活動する日本のNGOの協力で設立された国際交流施設「NGO-JICAジャパンデスク」の運営にも携わった。写真は同施設で行った日本語学習者対象の開発教育講座の受講者と島野さん（後列中央）

トのサポートがあつてこそ。センター全員、一丸となって取り組むことに喜びを感じています」と語る。
今は、「市民の理解を得ること」が使命だと考える島野さん。「日本の地域の中でJICAの存在意義を分かってもらえるよう努めたい」とJICA国内機関での仕事に意欲を燃やす。市民の心に根付く国際協力を推進すべく、島野さんの挑戦はこれからも続く。



menu

PARTNERS

地方自治体 横浜市

横浜から 「国際協力」を発信

5月28～30日、第4回アフリカ開発会議（TICAD）が横浜市内で開催される。JICAとも連携してさまざまな国際協力を積極的に推進してきた横浜市。2009年には開港150周年を迎え、「国際都市」としての存在感をますます高めている。



2月13日、「一校一国」運動で、ガーナ大使館参事官が横浜市立本牧小学校を訪問。5年生児童と交流した

TICADに向け、 横浜を「アフリカ色」に

人やモノの流通が盛んな港町として知られ、国際色豊かなまちづくりを進めてきた横浜市。TICAD開催地として、2007年9月にTICAD横浜開催推進委員会を市庁内に立ち上げ、市民のアフリカ理解促進を図ってきた。3月29日のTICAD開催記念シンポジウム（46ページ参照）には定員の倍を超える応募があり、市民のアフリカに対する関心は確実に高まっている。また、市内の小中学校を対象に「一校一国」運動を実施、アフリカ諸国の在日大使館やJICAの職員、元青年海外協力隊員による出張授業を行うなど、アフリカについて学習する場を設けている。

開催月である5月は「アフリカ月間」とし、市内はアフリカ一色に染まっている。横浜市営地下鉄は全駅構内に国旗やパネルを設置、

横浜の国際協力を アフリカへ

アフリカを全面にアピールする「一校一国」運動を実施中だ。さらに、横浜市水道局が製造するペットボトル水「はまっ子どっし」のTICAD横浜開催記念ボトルの販売や、市内のホテルやコンビニでアフリカの特産品を使った商品を販売する「アフリカのハラペコを救え」キャンペーンなど、市民が気軽に参加できる国際協力を推進。売上金の一部は、国連世界食糧計画またはJICAを通じてアフリカに寄付される。

国際都市横浜とJICAの連携事業は多岐にわたる。中でも歴史が長いのが、水道分野の技術協力事業。現在進行中なのは、ベトナム中部・フエ水道公社に対する「水道事業人材育成プロジェクト」。フエの人々が蛇口から安全な水を飲むようになることを目指し、水道公社の人材育成に取り組んでいる。これまでアジア・太平洋地域に対する支援が多かったが、今後はアフリカ諸国対象の研修も検討する。
また市の動物園課はJICAの草の根技術協力事業「野生動物飼



横浜市の水道施設を見学するフエ水道公社の研修員たち

育技術および環境教育活動の支援協力事業」をウガンダで開始する。これは、よこはま動物園（ズーラシア）の職員が青年海外協力隊員として現地に赴任したことも縁となり実現。1月末に動物園課の職員が現地関係機関と調整を行い、この秋には事業を始める予定だ。
TICADを機に、アフリカという新たな支援の領域に踏み出した横浜市。職員採用に協力隊経験者などの特別採用枠を設けるなど、国際協力分野の人材活用にも積極的だ。歴史ある港町から発信される国際協力は、日本の地域と世界をつなぐ懸け橋となるだろう。

横浜市

〒231-0017 横浜市中区港町1-1
TEL: 045-671-2121(代表)
FAX: 045-663-4670
URL: <http://www.city.yokohama.jp>



INFORMATION

緒方貞子理事長、 中東・米国訪問

3月5～20日、緒方貞子理事長はイスラエル、パレスチナ、シリアと米国を訪問、政府要人との会談やプロジェクト視察を行った。

イスラエル・パレスチナでは、西岸ジェリコ地域の「平和と繁栄の回廊」プロジェクトを視察、地方行政・母子保健分野事業の成果を確認したほか、国連難民支援事業の視察などを行った。情勢不安が続くガザに関しては、現地事務所とテレビ会議で現状を確認、今後の支援体制について協議した。

シリアでは、パレスチナ難民キャンプや青年海外協力隊の活動状況を視察。政府要人と会談した上で、難民・避難民の多い同国に対する協力の重要性を再確認した。

また、米国では潘基文国連事務総長を表敬。ミレニアム開発目標(MDGs)や人間の安全保障、アフガニスタン、スーダン、ガザの情勢に関する意見交換を行った。潘事務総長が今年10月に発足する新JICAへの期待感を示したのに対して、理事長は「統合によって日本の支援がより効率的になるよう努めていきたい」と述べた。

「アフリカ開発会議横浜 開催記念シンポジウム」 開催

今年5月末に第4回アフリカ開発会議(TICAD)の開催を控えた横浜で、3月29日に「アフリカ開発会議横浜開催記念シンポジウム」が開催された。当日は約750人が来場し、アフリカに関する話に熱心に耳を傾けた。

第1部では、緒方貞子理事長が「アフリカの開発と日本の役割」をテーマに基調講演を行い、アフリカの現状と支援の重要性について述べた。理事長は「アフリカでは各地で紛争が終結し平和構築が進む一方、いまだ脆弱性が残る。これからは成長の持続化を目指し、日本も政府、民間企業、NGO、市民が一体となって支援していくことが大切。TICAD 主催国としての役割は大きい」と語った。第2部は、フリーアナウンサーの草野満代氏の司会で、黒川恒男・JICAアフリカ部長、紺野美沙子・国連開発計画親善大使、中田宏・横浜市長によるパネルディスカッションが行われた。中田市長は「日本の地方自治体を持っている強みを、アフリカへ伝えていきたい」と強調した。

JICA地球ひろば、 来場者5万人突破

3月28

日、JICA地球ひろば体験ゾーンは、埼玉



5万人目の来場者となった埼玉県入間市児童センターの皆さん

県入間市児童センターの皆さんをお迎えし、2006年4月の開所から来場者5万人を突破しました。

同体験ゾーンでは、6月29日(日)まで「人間の安全保障」展を開催します。教育・医療・食料など、世界が抱える課題について、写真・映像・手に触れられる展示資料などを交えて紹介します。期間中は、日本人のブラジル移住100周年を記念した特集展示も行っていきます。詳細はホームページ(<http://www.jica.go.jp/hiroba>)をご覧ください。会場 JICA地球ひろば(東京都渋谷区) 開館時間 10時～20時(土日祝は18時まで、月曜閉館) 問 JICA地球ひろば 地球案内デスク TEL 0120・767278

青年海外協力隊 シニア海外ボランティア 2008年度春募集

JICAは青年海外協力隊・シニア海外ボランティアの2008年度春募集を行います。募集期間中は全国各地で「体験談&説明会」が開催されます。詳細はホームページ(<http://www.jica.go.jp>)をご覧ください。

募集期間 4月8日(火)～5月23日(金)

「青年海外協力隊」

募集分野/人数 農林水産、加工、保守操作、土木建築、保健衛生、教育文化、スポーツ、計画・行政の8部門、約120職種/約1400人

応募資格 満20歳～39歳(募集締め切り時)の日本国籍を持つ方

「シニア海外ボランティア」

募集分野/人数 計画・行政、公共・公益事業、農林水産、鉱工業、エネルギー、商業・観光、人的資源、保健・医療、社会福祉の9分野/約500人

応募資格 満40歳～69歳(募集締め切り時)の日本国籍を持つ方

問 JICAボランティア募集選考窓口

TEL 03・3406・9900